

女子戦評

大会名 第68回全日本バレーボール高等学校選手権大会 青森県代表決定戦

日 時 平成27年11月7日～8日

会 場 カクヒログループスタジアム

女子決勝（11月8日）

弘前学院聖愛高等学校	3	$\left\{ \begin{array}{l} 16 - 25 \\ 25 - 11 \\ 25 - 11 \\ 28 - 26 \end{array} \right\}$	1	五所川原商業高等学校
------------	---	--	---	------------

ファーストレフリー

津 嶋 由 香

セカンドレフリー

岡 村 尚 文

11年連続13回目の選手権大会出場を目指す弘前学院聖愛高等学校（以下聖愛）と14年ぶり3回目の出場を目指す五所川原商業高等学校（以下五商）の対戦。第1セットは五商のブロックとセンター攻撃が決まり終始五商ペースでゲームが展開される。聖愛も佐々木芳が着実に得点していくが、五商の田中、長谷川の攻撃がそれを上回り25対16で五商が第1セットを先取する。第2セットは、逆に聖愛のブロックが機能し始めたことによりディグも安定し、聖愛セッター境を中心としたコンビバレーが展開され、聖愛相馬と佐々木芳のスパイクが随所で決まり25対11で聖愛がとる。第3セットは序盤から聖愛のサーブが走り、聖愛のディグにも粘りが出てきて終始聖愛ペースで展開していく。五商も佐藤のサイド攻撃が要所で決まるが、聖愛の有効に機能しはじめたブロックにより五商のセンター攻撃が決まらずリズムが作れない。逆に聖愛は多彩な攻撃が展開され25対11で第3セットも聖愛がとる。第4セットは聖愛、五商とも持ち味を存分に発揮する展開となった。聖愛リードでゲームが展開されていくが、五商のセンター攻撃が着実に決まり始め、終盤に五商が追いつき、逆転する展開となる。聖愛は佐々木芳と相馬、五商は長谷川と田中がスパイクを決め、最後まで息をのむシーソーゲームが展開されたが、最後は聖愛キャプテン境のスパイクが決まり28対26で聖愛が接戦を制し、11年連続13回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 村元 直記